

平成29年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（夏季）入学試験

入学試験問題

⑩ 言語コミュニケーション・言語教育

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

**【共通問題】**

問1. 次の1～18から6つ選び、それぞれ具体例を挙げて説明しなさい。

(20点×6=120点)

1. 疑問数量詞
2. 対称詞と他称詞
3. メタ言語
4. 言語の線条（線状）性
5. 過剰修正
6. 言語使用域（レジスター）
7. 演繹（Deduction）
8. 命題（Proposition）
9. アブダクション（Abduction）
10. パラ言語学（Paralinguistics）
11. 言語相対論（linguistic relativity）
12. エティックとイーミック（etic and emic）
13. 質的研究 と 量的研究
14. イマージョン(Immersion)
15. 敷居理論（Thresholds Theory）
16. PPP アプローチ（PPP Approach）
17. 制限された注意容量モデル（Limited Attention Capacity Model, LACM）
18. DeKeyser のスキル構築理論（Skill Acquisition Theory proposed by DeKeyser）

**【選択問題】**

問2. 次のI～IXから2つ選び、それぞれについて解答しなさい。選んだ問題の番号を解答用紙に書きなさい。（40点×2=80点）

I 外国語教室においてディベート活動を取り入れることの利点と問題点をそれぞれ2点挙げて説明しなさい。（各10点×4=40点）

II 中国語のセンテンス「我请女朋友吃饭。」について、以下1、2の問いに答えなさい。

(40点)

1. 適切な日本語に訳しなさい。（20点。）
2. 下線部「女朋友」は文成分（句子成分）としては何に当たるか、簡潔に述べなさい。

(20点)

Ⅲ 以下の1～4の問いに答えなさい。(40点)

1. 日本語を母語とする人は[r]と[l]の音の違いを聞き分けるのが難しいとされています。それはどのような理由によるのかを音声・音韻論的に簡潔に述べなさい。(10点)
2. 日本語あるいは英語でいわゆる「曖昧性(ambiguity)」のある文を作り、それがなぜ「曖昧な文」なのかを簡潔に説明しなさい。(10点)
3. 「自動ドアが開いている」という日本語文の「-テイル-」は動作進行の解釈と結果継続の解釈の両方が可能です。日本語学習者にこのことを理解させるためにはどのような例文を提示し、どのように説明したらよいか、例文を提示した上で、簡潔に説明しなさい。(10点)
4. 「ママ、私お腹すいてる(=すいている)、何か食べるものない?」と「ママ、私お腹すいた、何か食べるものない?」における「お腹すいてる(=すいている)」と「お腹すいた」の違いを日本語学習者に理解させるためにはどのような例文を提示し、どのように説明したらよいか、例文を提示した上で、簡潔に説明しなさい。(10点)

Ⅳ 以下の文を読み、(1)(2)(3B)(4B)(5)をグライスの会話の原則から説明しなさい。

(各8点×5=40点)

- (1) He is a very bright student. (彼が全くできない学生である場合。)
- (2) I promise to fail you.
- (3) A: John plays golf.  
B: It's not very true. GOLF plays JOHN!
- (4) (お上品なパーティーで)  
A: Mrs. X is an old bag.  
B: The weather has been quite delightful this summer, hasn't it?
- (5) War is war.

Ⅴ 以下の文を読み、1～3の問いに答えなさい。(40点)

言語教育や言語習得の分野で質問紙(アンケート)による調査がしばしば行われますが、この調査方法だけでは限界があると言われています。

1. 質問紙調査の限界について具体例を挙げて説明しなさい。(20点)
2. 質問紙調査を補うものとしてどのような方法があるか、挙げなさい。(10点)
3. 2.で挙げた調査方法はそれぞれどのような特徴(長所)があるか述べなさい。(10点)

**VI** 以下の文を読み、1、2の問いに答えなさい。(40点)

外国語教授法では、全てのシラバスは、「統合的シラバス (Synthetic Syllabus)」と「分析的シラバス (Analytic Syllabus)」の連続体上に位置すると言われています。つまり、「文法シラバス」にするのか、「機能シラバス」にするのか、「タスクシラバス」にするのかの選択は、「統合的シラバス」から「分析的シラバス」までの連続体の中で教師により決定されるということです。「統合的シラバス」と「分析的シラバス」の特徴について、次の二つの観点から説明しなさい。

1. それぞれの背景にある第二言語習得観 (20点)
2. それぞれの具体的な教授法 (20点)

**VII** 言語権 (linguistic human rights/language rights) とは何か、具体例をあげながら説明しなさい。(40点)

**VIII** 第二言語習得における宣言的知識と手続的知識の違いを詳述しなさい。(40点)

**IX** ICTを使った言語教育、日本語教育に関する以下1～3の問いに答えなさい。(40点)

1. ICTを使った日本語教育の実例を示しなさい (10点)
2. 言語教育において、ICTを用いることの目的と有効性をそれぞれ具体的に述べなさい。  
(各10点×2=20点)
3. ICTを使った言語教育における留意点を具体的に述べなさい。(10点)